

Z会東大進学教室

直前難関大文系数学

【1 回目】



問題

【1】(1) 1 から 31 に

$$2 \text{ の倍数は } 31 \div 2 = \frac{31}{2} = 15 + \frac{1}{2} \quad \therefore \text{ 15 個}$$

$$2^2 \text{ の倍数は } 31 \div 2^2 = \frac{31}{4} = 7 + \frac{3}{4} \quad \therefore \text{ 7 個}$$

$$2^3 \text{ の倍数は } 31 \div 2^3 = \frac{31}{8} = 3 + \frac{7}{8} \quad \therefore \text{ 3 個}$$

$$2^4 \text{ の倍数は } 31 \div 2^4 = \frac{31}{16} = 1 + \frac{15}{16} \quad \therefore \text{ 1 個}$$

$2^5 = 32 > 31$ より 2^5 以上の 2 の累乗の倍数はない。よって、 $31!$ を素因数分解したときの 2 の個数は $15 + 7 + 3 + 1 = 26$ だから、求める k の値は、

$$k = 26 \quad (\text{答})$$

(2) $31!$ が $10 = 2 \times 5$ で何回割り切れるか考えればよい。ここで $31!$ を素因数分解したときの (2 の個数) $>$ (5 の個数) は明らかだから、 $31!$ を素因数分解したときの 5 の個数を求めればよい。

1 から 31 に

$$5 \text{ の倍数は } 31 \div 5 = \frac{31}{5} = 6 + \frac{1}{5} \quad \therefore \text{ 6 個}$$

$$5^2 \text{ の倍数は } 31 \div 5^2 = \frac{31}{25} = 1 + \frac{6}{25} \quad \therefore \text{ 1 個}$$

$5^3 = 125 > 31$ より 5^3 以上の 5 の累乗の倍数はない。よって、求める 0 の個数は $6 + 1 = 7$ (個) (答)

(3) (1), (2) のように $31!$ を素因数分解したとき、素数 3, 7, 11, 13, 17, 19, 23, 29, 31 がそれぞれいくつずつ現れるかを調べて素因数分解すると

$$31! = 2^{26} \times 3^{14} \times 5^7 \times 7^4 \times 11^2 \times 13^2 \times 17^1 \times 19^1 \times 23^1 \times 29^1 \times 31^1$$

でこれを $10^7 = 2^7 \times 5^7$ で割った

$$2^{19} \times 3^{14} \times 7^4 \times 11^2 \times 13^2 \times 17^1 \times 19^1 \times 23^1 \times 29^1 \times 31^1$$

の一の位の数字を求めればよい。そして

$$2^{19} = 2^9 \times 2^{10} = 512 \times 1024 \quad \therefore \text{ 一の位の数字は 8}$$

$$3^{14} = (3^4)^3 \times 3^2 = 81^3 \times 9 \quad \therefore \text{ 一の位の数字は 9}$$

$$7^4 = 7^2 \times 7^2 = 49 \times 49 \quad \therefore \text{ 一の位の数字は 1}$$

$$11^2 \quad \therefore \text{ 一の位の数字は 1}$$

$$13^2 \quad \therefore \text{ 一の位の数字は 9}$$

$$17 \times 19 \times 23 \times 29 \times 31 \text{ の一の位の数字は 1}$$

だから $8 \times 9 \times 1 \times 1 \times 9 \times 1$ の一の位の数字を求めればよく、これより、

$$8 \quad (\text{答})$$

【配点の目安】

配点：25 点

(1) 8 点 (2) 7 点 (3) 10 点

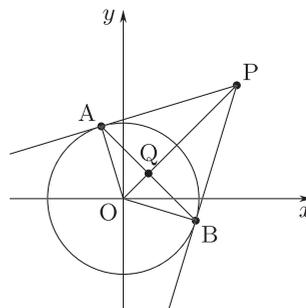
- (1) ₁ 1, 2, …, 31 に含まれる $2, 2^2, 2^3, 2^4$ の倍数の個数を
それぞれ求めて……………4 (各 1) 点
₂ 1, 2, …, 31 に $2^5, 2^6, …$ の倍数は含まれないことを述べて……………1 点
₃ 答に……………3 点
- (2) ₁ 連続して並ぶ 0 の個数が, $31!$ を素因数分解したときの
5 の個数と等しいことを述べて……………2 点
₂ 答に……………5 点
- (3) ₁ $31!$ を素因数分解して……………2 点
₂ $\frac{31!}{10^7}$ を素因数分解して……………2 点
₃ $\frac{31!}{10^7}$ の一の位の数字を求めて……………4 点
₄ 答に……………2 点

【2】(1) 右図で $\triangle AOQ$ と $\triangle POA$ は相似であり,

$$\frac{OQ}{OA} = \frac{OA}{OP}$$

なので,

$$\begin{aligned} \overrightarrow{OQ} &= |\overrightarrow{OQ}| \frac{\overrightarrow{OP}}{|\overrightarrow{OP}|} \\ &= \frac{|\overrightarrow{OA}|^2}{|\overrightarrow{OP}|^2} \overrightarrow{OP} \\ &= \frac{1}{|\overrightarrow{OP}|^2} \overrightarrow{OP} \end{aligned}$$



ここで,

$$|\overrightarrow{OP}|^2 = a^2 + b^2, \quad \overrightarrow{OP} = (a, b)$$

より,

$$\overrightarrow{OQ} = \left(\frac{a}{a^2 + b^2}, \frac{b}{a^2 + b^2} \right)$$

$$\therefore Q \left(\frac{a}{a^2 + b^2}, \frac{b}{a^2 + b^2} \right) \quad (\text{答})$$

(2) 点 Q の座標を (X, Y) とおくと, (1) より

$$X = \frac{a}{a^2 + b^2}, \quad Y = \frac{b}{a^2 + b^2}$$

よって

$$X^2 + Y^2 = \frac{a^2 + b^2}{(a^2 + b^2)^2} = \frac{1}{a^2 + b^2} (\neq 0)$$

なので

$$\begin{cases} X = a(X^2 + Y^2) \\ Y = b(X^2 + Y^2) \end{cases}$$

$$\therefore \begin{cases} a = \frac{X}{X^2 + Y^2} \dots\dots\dots \textcircled{1} \\ b = \frac{Y}{X^2 + Y^2} \dots\dots\dots \textcircled{2} \end{cases}$$

a, b は $(a-3)^2 + b^2 = 1$ をみたすから

$$a^2 + b^2 - 6a + 8 = 0 \dots\dots\dots \textcircled{3}$$

③に①, ②を代入して

$$\frac{1}{X^2 + Y^2} - 6 \cdot \frac{X}{X^2 + Y^2} + 8 = 0$$

$$\therefore 8(X^2 + Y^2) - 6X + 1 = 0$$

これより,

$$X^2 + Y^2 - \frac{3}{4}X + \frac{1}{8} = 0$$

$$\therefore \left(X - \frac{3}{8}\right)^2 + Y^2 = \left(\frac{1}{8}\right)^2$$

よって、Q の軌跡は、中心 $\left(\frac{3}{8}, 0\right)$ 、半径 $\frac{1}{8}$ の円

$$\left(x - \frac{3}{8}\right)^2 + y^2 = \left(\frac{1}{8}\right)^2 \quad (\text{答})$$

である.

【配点の目安】

配点：25 点

(1) 10 点 (2) 15 点

- (1) ₁ 答に 10 点
- (2) ₁ X, Y を a, b で表して 2 点
₂ a, b を X, Y で表して 3 点
₃ X, Y の関係式に 7 点
₄ 答に 3 点

$$\mathbf{【3】} \quad g'(x) = \begin{cases} a & (x \leq 0) \\ b & (x > 0) \end{cases} \quad \text{であり, } f(0) = 0 \text{ より}$$

$$\int_{-1}^0 f'(x) dx = f(0) - f(-1) = -f(-1)$$

$$\int_0^1 f'(x) dx = f(1) - f(0) = f(1)$$

なので,

$$\begin{aligned} & \int_{-1}^0 \{f'(x) - g'(x)\}^2 dx \\ &= \int_{-1}^0 \{f'(x) - a\}^2 dx \\ &= \int_{-1}^0 \{f'(x)\}^2 dx - 2a \int_{-1}^0 f'(x) dx + \int_{-1}^0 a^2 dx \\ &= a^2 + 2af(-1) + \int_{-1}^0 \{f'(x)\}^2 dx \\ &= \{a + f(-1)\}^2 - \{f(-1)\}^2 + \int_{-1}^0 \{f'(x)\}^2 dx \end{aligned}$$

また

$$\begin{aligned} & \int_0^1 \{f'(x) - g'(x)\}^2 dx \\ &= \int_0^1 \{f'(x) - b\}^2 dx \\ &= \int_0^1 \{f'(x)\}^2 dx - 2b \int_0^1 f'(x) dx + \int_0^1 b^2 dx \\ &= b^2 - 2bf(1) + \int_0^1 \{f'(x)\}^2 dx \\ &= \{b - f(1)\}^2 - \{f(1)\}^2 + \int_0^1 \{f'(x)\}^2 dx \end{aligned}$$

である. よって, 与式は

$$\begin{aligned} & \int_{-1}^0 \{f'(x) - g'(x)\}^2 dx + \int_0^1 \{f'(x) - g'(x)\}^2 dx \\ &= \{a + f(-1)\}^2 + \{b - f(1)\}^2 - \{f(-1)\}^2 - \{f(1)\}^2 + \int_{-1}^1 \{f'(x)\}^2 dx \end{aligned}$$

と変形でき, $-\{f(-1)\}^2 - \{f(1)\}^2 + \int_{-1}^1 \{f'(x)\}^2 dx$ は定数であるから, 与式は

$$a = -f(-1), \quad b = f(1)$$

のとき最小で, $g(-1) = -a, g(1) = b$ より

$$g(-1) = f(-1), \quad g(1) = f(1)$$

(証終)

【配点の目安】

配点：25 点

- ₁ $\int_{-1}^0 f'(x) dx = -f(-1), \int_0^1 f'(x) dx = f(1)$ を示して……………6 (各 3) 点
- ₂ $\int_{-1}^0 \{f'(x) - g'(x)\} dx, \int_0^1 \{f'(x) - g'(x)\} dx$ を
 $f(-1), f(1)$ を用いて表して……………8 (各 4) 点
- ₃ $a = -f(-1), b = f(1)$ のとき最小となることを述べて……………3 点
- ₄ 結論を述べて……………8 点

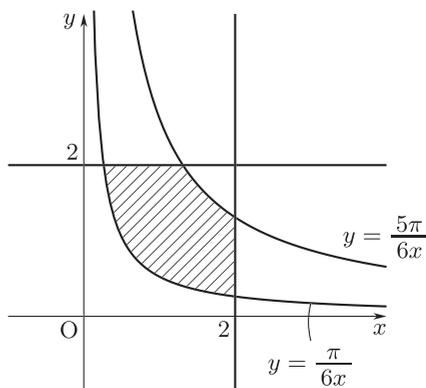
【4】(1) $0 \leq x \leq 2, 0 \leq y \leq 2$ より

$$0 \leq xy \leq 4 < \frac{13}{6}\pi$$

であるから

$$\frac{1}{2} \leq \sin(xy) \implies \frac{\pi}{6} \leq xy \leq \frac{5\pi}{6}$$

よって、領域 D を図示すると、右図の斜線部のようになる。ただし、境界をすべて含む。(答)



(2) まず、 $x + y = k$ とおき、この直線が領域 D と共有点をもつような k の値の範囲を求める。

$y = \frac{\pi}{6x}$ のグラフは $x > 0$ の範囲ではつねに下に凸で、かつ直線 $y = x$ に関して対称である。

ゆえに、直線 $x + y = k$ が曲線 $y = \frac{\pi}{6x}$ と接するとき、接点は直線 $y = x$ 上にあるので、接点の座標は

$$\left(\sqrt{\frac{\pi}{6}}, \sqrt{\frac{\pi}{6}}\right) \text{ すなわち } \left(\frac{\sqrt{6\pi}}{6}, \frac{\sqrt{6\pi}}{6}\right)$$

となり、このとき $k = \frac{\sqrt{6\pi}}{3}$ である。

また、 $y = \frac{5\pi}{6x}$ のグラフも $x > 0$ の範囲でつねに下に凸であり、この曲線と直線 $y = 2$ との交点 $\left(\frac{5\pi}{12}, 2\right)$ を直線 $x + y = k$ が通るとき、 $k = \frac{5\pi}{12} + 2$ であり、このとき曲線 $y = \frac{5\pi}{6x}$ と直線 $x = 2$ との交点も通る。したがって、点 (x, y) が領域 D を動くとき、 $x + y$ のとり得る値の範囲は

$$\frac{\sqrt{6\pi}}{3} \leq x + y \leq \frac{5\pi}{12} + 2$$

である。ここで、 $3.1 < \pi < 3.2$ より

$$\left(\frac{\pi}{2}\right)^2 - \left(\frac{\sqrt{6\pi}}{3}\right)^2 = \frac{\pi(3\pi - 8)}{12} > 0$$

$$\frac{5\pi}{12} + 2 - \pi = \frac{24 - 7\pi}{12} > 0$$

$$\frac{3\pi}{2} - \left(\frac{5\pi}{12} + 2\right) = \frac{13\pi - 24}{12} > 0$$

であるから

$$\frac{\sqrt{6\pi}}{3} < \frac{\pi}{2} < \pi < \frac{5\pi}{12} + 2 < \frac{3\pi}{2}$$

が成り立つ。ゆえに、 $\sin(x + y)$ は $x + y = \frac{\pi}{2}$ のときに最大、 $\frac{5\pi}{12} + 2$ のときに最小になり

$$\text{最大値 } 1, \text{ 最小値 } \sin\left(\frac{5\pi}{12} + 2\right) \quad (\text{答})$$

【配点の目安】

配点：25 点

(1) 10 点 (2) 15 点

(1) ₁ $0 \leq xy \leq 4$ がわかって.....3 点

₂ $\frac{\pi}{6} \leq xy \leq \frac{5}{6}\pi$ がわかって.....3 点

₃ 答に.....4 点

(2) ₁ $x + y$ の最小値が $\frac{\sqrt{6\pi}}{3}$ とわかって.....4 点

₂ $x + y$ の最大値が $\frac{5\pi}{12} + 2$ とわかって.....4 点

₃ 答に.....7 点



会員番号	
------	--

氏名	
----	--